

平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)



平成26年5月12日

上場会社名 日本電子材料株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6855 URL <http://www.jem-net.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 風間 悅男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門統括部長 (氏名) 足立 安孝 (TEL) 06(6482)2007
 定時株主総会開催予定日 平成26年6月25日 配当支払開始予定日 平成26年6月26日
 有価証券報告書提出予定日 平成26年6月25日¹
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期の連結業績(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	9,799	△ 12.6	183	—	214	337.6	93	—
25年3月期	11,213	0.7	12	△ 96.1	49	△ 82.0	△ 172	—

(注) 包括利益 26年3月期 586 百万円 (205.7%) 25年3月期 191 百万円 (— %)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
26年3月期	円 銭 8.84	円 銭 —	% 1.0	% 1.7	% 1.9
25年3月期	△16.32	—	△ 1.9	0.4	0.1

(参考) 持分法投資損益 26年3月期 —百万円 25年3月期 25年3月期 △ 3百万円

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
26年3月期	13,357		9,658		71.3		899.04	
25年3月期	12,562		9,082		71.1		857.72	

(参考) 自己資本 26年3月期 9,520 百万円 25年3月期 8,938 百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
26年3月期	百万円 273	百万円 21	百万円 45	百万円 2,952
25年3月期	1,044	△ 466	△ 386	2,308

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
25年3月期	円 銭 —	円 銭 5.00	円 銭 —	円 銭 4.00	円 銭 9.00	百万円 95	% —	% 1.1
26年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00	84	90.5	0.9
27年3月期(予想)	—	4.00	—	4.00	8.00	52.9		

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高	営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
第2四半期(累計)	5,200	12.6	140	277.5	150	126.6	80	7.55
通期	10,400	6.1	280	52.8	300	39.6	160	15.11

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 有

新規 1 社 (社名) ジェム上海社、除外 - 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数

	26年3月期	10,604,880株	25年3月期	10,604,880株
26年3月期		15,334株	25年3月期	15,284株
26年3月期		10,589,573株	25年3月期	10,589,596株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成26年3月期の個別業績（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	7,927	△ 7.9	86	—	477	—	418	—
25年3月期	8,611	△ 10.9	△ 387	—	△ 195	—	△ 173	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後		1株当たり当期純利益
		円 銭	円 銭	
26年3月期	39.49	—	—	
25年3月期	△ 16.41	—	—	

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
26年3月期	11,556		8,042		69.6	759.50		
25年3月期	10,951		7,699		70.3	727.09		

(参考) 自己資本

26年3月期 8,042百万円

25年3月期 7,699百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

- この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 経営成績・財政状態に関する分析 (1) 経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	P2
(1) 経営成績に関する分析	P2
(2) 財政状態に関する分析	P3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	P4
(4) 事業等のリスク	P4
2. 企業集団の状況	P5
3. 経営方針	P7
(1) 会社の経営の基本方針	P7
(2) 目標とする経営指標	P7
(3) 中長期的な会社の経営戦略	P7
(4) 会社の対処すべき課題	P7
4. 連結財務諸表	P8
(1) 連結貸借対照表	P8
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	P10
(3) 連結株主資本等変動計算書	P12
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	P14
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	P16
(継続企業の前提に関する注記)	P16
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	P16
(会計方針の変更)	P19
(未適用の会計基準等)	P19
(表示方法の変更)	P19
(連結貸借対照表関係)	P20
(連結損益計算書関係)	P20
(連結株主資本等変動計算書関係)	P21
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	P22
(セグメント情報等)	P23
(1株当たり情報)	P25
(重要な後発事象)	P25

1. 経営成績・財政状態に関する分析

（1）経営成績に関する分析

①当期の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外景気の下振れによるリスクがあったものの、政府の経済政策への期待を背景に、個人消費の持ち直しや企業収益にも改善の兆しが見られる等、緩やかな回復基調となりました。

当社グループの主たる事業分野である半導体市場は、メモリーIC向けの半導体工場において設備投資が再開された一方で、テレビ等のデジタル家電向け需要の低迷の影響により、国内半導体工場の再編が発表される等、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような事業環境の中、当社グループの受注は全体としては厳しい状況が続きました。年末以降、回復傾向となりましたが、年間を通じての需要減少の影響を補うことはできず、売上高につきましては、前連結会計年度を下回る結果となりました。また、利益面につきましては、原価低減を推し進めたこと等により、前連結会計年度を上回る結果となりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高97億9千9百万円（前連結会計年度比12.6%減）、営業利益1億8千3百万円（前連結会計年度営業利益1千2百万円）、経常利益2億1千4百万円（前連結会計年度経常利益4千9百万円）、当期純利益は9千3百万円（前連結会計年度当期純損失1億7千2百万円）となりました。

なお、報告セグメント別の業績は次のとおりです。

a. 半導体検査用部品関連事業

スマートフォンやタブレット端末用に需要が拡大している半導体向けを中心に販売強化を行うとともに、新規市場の開拓等の施策も推し進めました。

その結果、売上面につきましては、NAND型フラッシュメモリー向けについては、緩やかな回復傾向となりましたが、海外向けの受注が伸びなかつた事に加え、国内向けについてもデジタル家電の販売不振の影響等により市場が冷え込み、厳しい状況が続きました。年末以降、需要の回復とともに既存顧客に対する一層の販売強化を行った結果、受注は回復傾向となりましたが、年間を通じての需要減少の影響を補うことはできず、前連結会計年度を下回る結果となりました。

利益面につきましては、内製化およびVA活動による原価低減活動等を推し進めた結果、前連結会計年度を上回る結果となりました。

以上の結果、売上高は96億3千4百万円（前連結会計年度比12.7%減）、セグメント利益は8億5千4百万円（前連結会計年度比7.9%増）となりました。

b. 電子管部品関連事業

電子管部品関連事業の売上高は、1億6千5百万円（前連結会計年度比10.0%減）、セグメント利益は2千4百万円（前連結会計年度比11.3%減）となりました。

②次期の見通し

当社グループの主な事業分野である半導体市場は、新興国におけるスマートフォンの市場拡大等により、緩やかな成長基調は維持されると予想しております。このような事業環境の中、当社グループといたしましては、市場の要求に応える製品の開発とサービスの強化等により、競争力の向上に取り組んでまいります。

以上を踏まえ次期（平成27年3月期）の業績予想の見通しにつきましては、連結売上高104億円、連結営業利益2億8千万円、連結経常利益3億円、連結当期純利益は1億6千万円を見込んでおります。

なお、上記予想は本資料の発表日現在における経済動向や市場環境をはじめとする情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想値と異なる結果となる場合があるほか、予想自体についても今後変更することがあります。

(2) 財政状態に関する分析

①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ7億9千5百万円増加し、133億5千7百万円となりました。

これは主として、有価証券が1億2千2百万円、投資有価証券が1億6百万円減少いたしましたが、現金及び預金が5億9千万円、受取手形及び売掛金が5億5千7百万円増加したこと等によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2億2千万円増加し、36億9千9百万円となりました。

これは主として、短期借入金が1億8千6百万円、1年内償還予定の社債が1億円、社債が1億円減少いたしましたが、1年内返済予定の長期借入金が9千1百万円、長期借入金が5億6百万円増加したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5億7千5百万円増加し、96億5千8百万円となりました。

これは主として、利益剰余金が7千4百万円、為替換算調整勘定が4億9千万円増加したこと等によるものであります。

なお、以上の増減には、ジェム上海社の連結子会社化及びJEMファインテック株の連結の範囲からの除外によるものが含まれております。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、6億4千3百万円増加し、当連結会計年度末には29億5千2百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動による資金の増加は、2億7千3百万円（前連結会計年度比73.8%減）となりました。

これは主として、売上債権の増加4億8百万円の減少要因があったものの、減価償却費6億3百万円や退職給付に係る負債の増加2千5百万円等による増加要因があつたことによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動による資金の増加は、2千1百万円（前連結会計年度4億6千6百万円減少）となりました。

これは主として、定期預金の預入による支出1億4千6百万円、有価証券の取得による支出82億5千9百万円、有形固定資産の取得による支出2億2千9百万円等による減少要因があつたものの、定期預金の払戻による収入3億1千1百万円、有価証券の売却による収入84億円による増加要因があつたことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動による資金の増加は、4千5百万円（前連結会計年度3億8千6百万円減少）となりました。

これは主として、長期借入金の返済による支出1億1百万円、社債の償還による支出2億円、配当金の支払額8千4百万円の減少要因があつたものの、長期借入れによる収入7億円等による増加要因があつたことによります。

（3）利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当の継続を基本とし株主還元を行うことを基本方針としています。

当期末の剩余金の配当につきましては、1株当たり4円とさせていただく予定であり、当期の剩余金の配当は、1株当たり年間8円（中間4円、期末4円）とさせていただく予定です。

なお、次期の剩余金の配当につきましても、厳しい事業環境が継続することも勘案し、1株当たり年間8円（中間4円、期末4円）を予定しています。

（4）事業等のリスク

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のある主要なリスクは以下のとおりです。なお文中における将来に関する事項は、本決算短信提出日現在において当社グループが判断したものですが、リスクの全てを網羅したものではなく、事業等のリスクは以下に限定されるものではありません。

①半導体需要の影響

当社グループの売上の大半は半導体検査用部品であるプローブカードであり、半導体の回路毎に設計・製造される消耗品としての特性を有しています。このため半導体需要の低迷により当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

②半導体業界再編の影響

半導体ビジネスは、投資コストの増加や需給バランスの不安定さ等の影響により、事業構造の複雑化が増しており収益性の向上を図ることも容易ではなくなっています。その為、国内の半導体メーカーを中心に工場の再編が進む一方で、ファウンドリやファブレスのような世界規模の分業化も加速しています。これらの半導体業界の再編は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

③製品価格変動の影響

半導体メーカーは、利益と競争力を維持するためコスト削減を徹底しており、プローブカードに対しても厳しい価格要請が継続しています。今後も販売価格がさらに下落した場合、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

④為替変動の影響

当社グループは、一層の海外販売の強化をおこなう方針であります。外貨建ての取引については、為替予約等のリスクマネジメントをおこなっておりますが、為替相場の変動が当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

⑤新製品開発等による影響

当社グループの顧客である半導体メーカーの技術革新はめざましく、当社におきましても既存製品の技術改良ならびに新製品開発を積極的に進めています。しかしながら、当社の技術改良ならびに新製品開発の投入遅れなどが生じた場合、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

⑥製品の品質に係わる影響

当社グループでは品質の重要性を認識し、厳正な品質管理基準に従い製品の製造及び販売を行っています。しかしながら、予期せぬ製品の欠陥、不良などの品質上の問題が発生した場合には、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

⑦災害による影響

地震や火災等の予測不可能な自然災害や事故災害が発生した場合、当社グループの設備等が損害を受ける可能性があります。また、その修復費用や生産の一時停止等が発生し、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。加えて災害の影響等により、当社グループが所在する地域において、電力供給の制限等があった場合にも、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

2. 企業集団の状況

当社グループは、日本電子材料株式会社（当社）及び子会社6社により構成されており、半導体検査用部品、電子管部品の開発、製造及び販売を主とした事業活動を行っております。

事業内容と当社及び関係会社の当該事業にかかる位置づけならびにセグメントとの関連は次のとおりです。

区分	主要製品	主要な会社	
半導体検査用部品関連事業	<カンチレバー型プローブカード>		
	・Cタイププローブカード (CEシリーズ)	開発・製造・販売	当社
		製造・販売	ジェムアメリカ社
		"	ジェム台湾社
	<アドバンストプローブカード>	"	ジェムヨーロッパ社
	・Vタイププローブカード (VCシリーズ、VSシリーズ、 VTシリーズ)	"	ジェム上海社
		"	同和ジェム(株)
	・Mタイププローブカード (MCシリーズ)	製造	ジェム香港社
電子管部品関連事業	陰極 フィラメント	製造・販売	当社

(注) 1. Cタイププローブカード

プローブ（探針）の形状が力学でいう片持ち梁（Cantilever）の構造を持つタイプです。

2. Vタイププローブカード

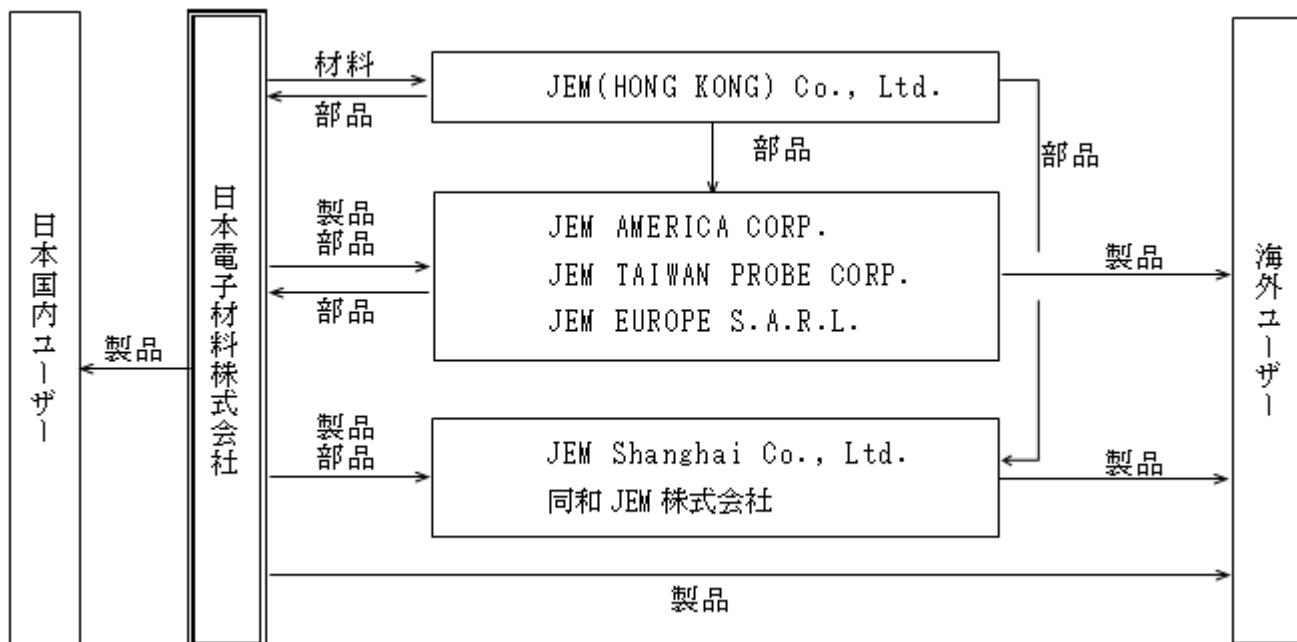
プローブ（探針）の形状が垂直型で、主として半導体の高集積化・高速化対応として使用されているタイプです。

- ① VCシリーズ ・・・ 垂直接触型プローブカード
- ② VSシリーズ ・・・ 垂直スプリング接触型プローブカード
- ③ VTシリーズ ・・・ 垂直接触型プローブカード

3. Mタイププローブカード

MEMS（Micro Electro Mechanical Systems）技術を用いたプローブユニットを使用しているタイプです。

[事業系統図]



(注) 関係会社の正式名及び略称は下記のとおりであります。

正式名	略称
JEM AMERICA CORP.	ジェムアメリカ社
JEM (HONG KONG) Co., Ltd.	ジェム香港社
JEM TAIWAN PROBE CORP.	ジェム台湾社
JEM EUROPE S. A. R. L.	ジェムヨーロッパ社
JEM Shanghai Co., Ltd.	ジェム上海社
同和JEM株式会社	同和ジェム(株)

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、1960年の創業以来、「人類に幸福をもたらす技術の開発と製品化により社会に貢献する」という経営理念のもとに、常に5年先を見据えた顧客志向と品質優先により、「企業価値の向上」を目指し、株主や取引先、従業員などの利害関係者の利益の向上を図ることを経営方針としています。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、安定的な収益力を表す指標として連結経常利益率10%以上、また、株主資本利益率（ROE）10%以上を目指しております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループの主な事業分野である半導体市場は、パソコンの販売不振やテレビ等のデジタル家電の需要低迷の長期化等の影響を受ける一方で、新興国におけるスマートフォンの市場拡大やクラウドサービスの広がりによるデータセンター向け需要の伸び、ハイブリッドカーや電気自動車の普及等により堅調に推移する車載向け市場等により、緩やかな成長基調は維持されると予想しております。

このような事業環境の中、当社グループといたしましては、収益性の改善を最優先課題とし、「(4) 会社の対処すべき課題」に記載しました各項目の実行に全力で取り組んでまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

①市場の要求に応える製品の開発とサービスの強化

今後も成長が見込まれるNAND型フラッシュメモリー向けプロープカードの拡販を推し進めます。さらにDRAM向けプロープカードの市場投入を着実に実施するとともに、次世代ロジックIC向け製品や、新たなコントローラーの開発を加速させ、ビジネスチャンスの拡大を図ります。

②海外販売の強化

海外の半導体市場は、アジアを中心に着実な成長を遂げております。また、製造を専門に行うファウンドリや、自社工場を持たず製品の企画や設計のみを行うファブレスメーカーの台頭等、半導体の生産は世界規模で分業化が進んでおります。当社グループは、アメリカ、韓国、台湾、フランス、中国に配置した海外拠点のネットワークを活かした販売活動の充実を図るとともに、日本から各国拠点へのリソース投入や一層の技術支援により、海外販売の強化を推進します。

③付加価値向上への取組み

新興国におけるスマートフォンの市場拡大により、半導体の需要増加が見込める一方で、価格低下を招く可能性があります。プロープカード市場もそれらの影響をうけ、厳しい事業環境となる事が予想されます。今後も技術革新やVA活動による原価低減や品質向上によって、付加価値の向上を図ります。

④経営基盤の更なる強化

為替変動や緊急時における対応等、リスクマネジメントの一層の高度化を目指し、経営基盤の強化に努めるとともに、コーポレート・ガバナンスの更なる強化を実施し、企業価値の向上に努めます。

4. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	2,565	3,155
受取手形及び売掛金	*3 3,299	*3 3,856
有価証券	1,625	1,503
製品	57	156
仕掛品	239	341
原材料及び貯蔵品	959	887
繰延税金資産	130	150
その他	363	344
貸倒引当金	△2	△4
流动資産合計	9,238	10,392
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,751	1,808
減価償却累計額	△1,086	△1,186
建物及び構築物（純額）	*2 665	*2 622
機械装置及び運搬具	3,669	4,220
減価償却累計額	△2,804	△3,479
機械装置及び運搬具（純額）	864	741
工具、器具及び備品	3,162	3,153
減価償却累計額	△2,939	△2,980
工具、器具及び備品（純額）	222	173
土地	*2 706	*2 766
リース資産	443	443
減価償却累計額	△207	△263
リース資産（純額）	235	179
建設仮勘定	12	65
有形固定資産合計	2,707	2,548
無形固定資産		
その他	151	108
無形固定資産合計	151	108
投資その他の資産		
投資有価証券	*1 215	*1 109
その他	254	200
貸倒引当金	△4	△0
投資その他の資産合計	464	308
固定資産合計	3,323	2,965
資産合計	12,562	13,357

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流动負債		
支払手形及び買掛金	1,195	1,219
短期借入金	*2 700	*2 513
1年内償還予定の社債	*2 200	*2 100
1年内返済予定の長期借入金	*2 101	*2 193
リース債務	82	97
未払金	188	209
未払費用	163	188
その他	178	182
流动負債合計	2,809	2,704
固定負債		
社債	*2 100	*2 —
長期借入金	*2 —	*2 506
リース債務	195	97
繰延税金負債	13	59
役員退職慰労引当金	171	136
退職給付引当金	166	—
退職給付に係る負債	—	185
その他	23	9
固定負債合計	669	994
負債合計	3,479	3,699
純資産の部		
株主資本		
資本金	983	983
資本剰余金	1,202	1,202
利益剰余金	7,311	7,385
自己株式	△15	△15
株主資本合計	9,481	9,556
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3	12
為替換算調整勘定	△546	△55
退職給付に係る調整累計額	—	7
その他の包括利益累計額合計	△543	△35
少數株主持分	144	137
純資産合計	9,082	9,658
負債純資産合計	12,562	13,357

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	11,213	9,799
売上原価	8,544	6,864
売上総利益	2,668	2,934
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	652	686
退職給付費用	59	58
役員退職慰労引当金繰入額	11	6
減価償却費	64	46
研究開発費	*1 864	*1 821
その他	1,004	1,132
販売費及び一般管理費合計	2,656	2,751
営業利益	12	183
営業外収益		
受取利息	10	10
受取手数料	2	1
為替差益	60	2
保険解約返戻金	—	13
その他	29	35
営業外収益合計	102	63
営業外費用		
支払利息	19	13
持分法による投資損失	3	—
固定資産廃棄損	9	4
一時帰休労務費	21	6
デリバティブ評価損	1	3
その他	9	3
営業外費用合計	65	31
経常利益	49	214
特別利益		
負ののれん発生益	5	—
特別利益合計	5	—
特別損失		
段階取得に係る差損	90	—
特別損失合計	90	—
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失（△）	△36	214
法人税、住民税及び事業税	128	87
法人税等調整額	△32	74
法人税等合計	96	161
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失（△）	△132	53
少数株主利益又は少数株主損失（△）	40	△40
当期純利益又は当期純損失（△）	△172	93

連結包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主 損益調整前当期純損失（△）	△132	53
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	9
為替換算調整勘定	234	523
持分法適用会社に対する持分相当額	88	—
その他の包括利益合計	324	533
包括利益	191	586
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	141	593
少数株主に係る包括利益	50	△6

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	983	1,202	7,589	△15	9,760
当期変動額					
剰余金の配当			△105		△105
当期純損失(△)			△172		△172
連結範囲の変動			—		—
自己株式の取得				—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			△278	—	△278
当期末残高	983	1,202	7,311	△15	9,481

	その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1	△858	—	△857	—	8,903
当期変動額						
剰余金の配当						△105
当期純損失(△)						△172
連結範囲の変動						—
自己株式の取得						—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1	312	—	313	144	458
当期変動額合計	1	312	—	313	144	179
当期末残高	3	△546	—	△543	144	9,082

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	983	1,202	7,311	△15	9,481
当期変動額					
剰余金の配当			△84		△84
当期純利益			93		93
連結範囲の変動			65		65
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			74	△0	74
当期末残高	983	1,202	7,385	△15	9,556

	その他の包括利益累計額				少數株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	3	△546	—	△543	144	9,082
当期変動額						
剰余金の配当						△84
当期純利益						93
連結範囲の変動						65
自己株式の取得						△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	9	490	7	507	△6	500
当期変動額合計	9	490	7	507	△6	575
当期末残高	12	△55	7	△35	137	9,658

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失（△）	△36	214
減価償却費	707	603
負ののれん発生益	△5	-
持分法による投資損益（△は益）	3	-
退職給付引当金の増減額（△は減少）	25	-
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	-	25
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	15	△49
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△2	△2
受取利息及び受取配当金	△13	△12
支払利息	19	13
有形固定資産売却損益（△は益）	5	0
有形固定資産除却損	9	4
段階取得に係る差損益（△は益）	90	-
売上債権の増減額（△は増加）	816	△408
たな卸資産の増減額（△は増加）	102	△37
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△65	88
仕入債務の増減額（△は減少）	△509	△50
その他の流動負債の増減額（△は減少）	4	△17
その他	△25	△25
小計	1,143	345
利息及び配当金の受取額	16	12
利息の支払額	△20	△14
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△95	△70
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,044	273

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△9,742	△8,259
有価証券の売却及び償還による収入	9,790	8,400
有形固定資産の取得による支出	△478	△229
有形固定資産の売却による収入	7	1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	*2 48	*2 -
貸付けによる支出	△17	△11
貸付金の回収による収入	17	2
定期預金の預入による支出	△210	△146
定期預金の払戻による収入	37	311
信託受益権の取得による支出	△654	△426
信託受益権の償還による収入	804	380
その他の支出	△77	△25
その他の収入	9	23
投資活動によるキャッシュ・フロー	△466	21
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	8,400	6,968
短期借入金の返済による支出	△8,300	△7,154
長期借入れによる収入	-	700
長期借入金の返済による支出	△99	△101
社債の償還による支出	△200	△200
自己株式の取得による支出	-	△0
配当金の支払額	△105	△84
リース債務の返済による支出	△81	△82
財務活動によるキャッシュ・フロー	△386	45
現金及び現金同等物に係る換算差額	112	250
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	304	590
現金及び現金同等物の期首残高	2,004	2,308
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	52
現金及び現金同等物の期末残高	*1 2,308	*1 2,952

（5）連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社数 6社

連結子会社の名称

ジェムアメリカ社

ジェム香港社

ジェム台灣社

ジェムヨーロッパ社

同和ジェム㈱

ジェム上海社

なお、前連結会計年度において非連結子会社であったジェム上海社につきましては、グループ内における重要性が増したことにより、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。また、連結子会社であったJEMファインテック㈱につきましては、清算結了したため当連結会計年度より連結の範囲から除外しております。

2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、在外連結子会社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

3. 会計処理基準に関する事項

（1）重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

a. 子会社株式

移動平均法による原価法

b. その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

a. 製品・仕掛品

主としてプロープカード等の受注生産品は個別法、その他見込生産品は月別総平均法

b. 原材料

主として移動平均法

c. 貯蔵品

主として最終仕入原価法

③ デリバティブ取引により生じる債権及び債務

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

a. リース資産以外の有形固定資産

当社は定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法）を採用し、在外連結子会社は、所在地国の会計基準の規定に基づき定額法及び定率法を採用しております。

b. リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（リース契約に残価保証の取決めがある場合は、当該残価保証額）とする定額法を採用しております。

② 無形固定資産

a. リース資産以外の無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、当社は、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

b. リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース資産は無形固定資産の「その他」に含めて計上しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、主として一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 役員退職慰労引当金

当社及び一部の在外連結子会社は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規等に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用については、発生年度に全額を一括して費用処理しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債並びに収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を当連結会計年度末より適用し（ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。）、退職給付債務を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る負債に計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項の定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が185百万円計上されております。また、その他の包括累計額が7百万円増加しております。

なお、1株あたり情報に与える影響額は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）

「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

1. 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものであります。

2. 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定であります。

3. 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、軽微であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「デリバティブ評価損」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より区分掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた10百万円は、「デリバティブ評価損」1百万円、「その他」9百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

* 1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券(株式)		
ジェム上海社	116百万円	一百万円

* 2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
建物及び構築物	132百万円	387百万円
土地	222百万円	382百万円
計	354百万円	770百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	400百万円	400百万円
1年内償還予定の社債	200百万円	100百万円
社債	100百万円	一百万円
1年内返済予定の長期借入金	一百万円	133百万円
長期借入金	一百万円	266百万円
計	700百万円	900百万円

* 3 連結会計年度末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形	9百万円	一百万円

(連結損益計算書関係)

* 1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
一般管理費	864百万円	821百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	10,604	—	—	10,604

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	15,284	—	—	15,284

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	52	5	平成24年3月31日	平成24年6月27日
平成24年10月24日 取締役会	普通株式	52	5	平成24年9月30日	平成24年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	42	4	平成25年3月31日	平成25年6月26日

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	10,604	—	—	10,604

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	15,284	50	—	15,334

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 50株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	42	4	平成25年3月31日	平成25年6月26日
平成25年10月25日 取締役会	普通株式	42	4	平成25年9月30日	平成25年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	42	4	平成26年3月31日	平成26年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- * 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目的金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金勘定	2,565百万円	3,155百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△ 255百万円	△202百万円
現金及び現金同等物	2,308百万円	2,952百万円

- * 2 連結会計年度に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

株式の取得により、新たに同和ジェム㈱を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得による収入(純額)との関係は次のとおりです。

流動資産	289百万円
固定資産	269
流動負債	△308
固定負債	△ 69
負ののれん	△ 5
少数株主持分	△93
評価差額	9
小計	91
支配獲得までの既取得価額	△ 55
追加取得株式の取得価額	36
現金及び現金同等物	△ 84
連結の範囲の変更を伴う子会社	48
株式の取得による収入	

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等の意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品の種類、性質、製造方法等の共通性に基づき、「半導体検査用部品関連事業」及び「電子管部品関連事業」の2つを報告セグメントとしております。

各事業の主要な製品は次のとおりであります。

事業区分	主要製品
半導体検査用部品関連事業	<カンチレバー型プローブカード> Cタイププローブカード C Eシリーズ <アドバンストプローブカード> Vタイププローブカード V Cシリーズ（垂直接触型プローブカード） V Sシリーズ（垂直スプリング接触型プローブカード） V Tシリーズ（垂直接触型プローブカード） Mタイププローブカード M Cシリーズ
電子管部品関連事業	陰極、フィラメント

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であり、報告セグメントの利益は、営業利益であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	連結財務 諸表計上額 (注2)
	半導体検査用 部品関連事業	電子管部品 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,030	183	11,213	—	11,213
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	11,030	183	11,213	—	11,213
セグメント利益	792	27	819	△ 807	12
その他の項目					
減価償却費	666	0	666	40	707
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	472	—	472	22	495

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。
 - (2) 減価償却費の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る償却額であります。
 - (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る設備投資額であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 - 3 セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはしていないため記載しておりません。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	連結財務 諸表計上額 (注2)
	半導体検査用 部品関連事業	電子管部品 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,634	165	9,799	—	9,799
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	9,634	165	9,799	—	9,799
セグメント利益	854	24	879	△ 696	183
その他の項目					
減価償却費	578	0	578	25	603
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	228	—	228	2	231

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。
 - (2) 減価償却費の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る償却額であります。
 - (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る設備投資額であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 - 3 セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはしていないため記載しておりません。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1 株当たり純資産額	857.72円	899.04円
1 株当たり当期純利益又は当期純損失金額(△)	△ 16.32円	8.84円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純損失金額(△)の算定上の基礎

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	△ 172	93
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	△ 172	93
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,589	10,589

(重要な後発事象)

該当事項はありません。